

研修テーマ

きいて かんじて つながろう

～思いや意図をもち、いきいきと表現する子どもの育成～

- 1 日 時 平成28年9月26日(月) 8:50～16:45
9月27日(火) 9:30～15:30
- 2 会 場 倉吉市立河北小学校 倉吉未来中心
- 3 講 師 むさし野ジュニア合唱団“風” 指導者 前田 美子 先生

4 研修内容

(1) 音楽集会について



全校合唱「まくをあげよう」の様子を見ていただき、実際に児童を指導していただいた。曲名になっている歌詞の部分を中心して歌うことで、児童が曲想のふさわしい歌い方をするようになった。そして、学年ごとに歌いながら、前田先生の称賛の言葉かけによって、児童が変容し、意欲が高まっていった。それは、児童の心にしっかりと響く言葉であったからだと考えられる。

助言や指示の言葉を見直し、児童の心がほぐれ、「歌いたい」と思う言葉かどうかを考えていきたい。

また、中国・四国大会では、地元に伝わる打吹天女伝説をもとに特別に作っていただいた曲を歌う予定である。その曲と児童との出会いについて話し合った。

授業や音楽集会をつくり上げる第一歩として、曲との出会いを大切にすることを学んだ。視覚的な支援が必要な場合もあるが、児童のイメージを固定化しないように教材や資料を選定することが必要である。児童が曲を聴いたり歌詞を読んだりしながらイメージを広げ、自分なりの表現の仕方を考えることが大切である。

(2) 授業づくりについて

曲に浸る活動を取り入れることや児童同士の評価の大切さを指導していただいた。授業を参観していただきながら、特に支援を必要とする児童への手立てについて、「予め情報を与えること」「歌いたいところを前もって聞いておくこと」「並び順を考えること」などと具体的な示唆をいただいた。



(3) 研究演奏(中国・四国大会)について

11月に開催される中国・四国大会では、研究演奏として、倉吉市立西郷小学校5・6年生児童が音楽物語「ふたりはともだち」を披露する。

前田先生には、歌と台詞、ピアノ間奏で表現する音楽物語であるため、ミュージカル風に動作をつけて台詞を言ったり立ち位置や舞台への入り方を変えたりしながら、舞台全体を使った発表になるように助言された。登場人物のかえるくんとがまくん、かたつむりくんの気持ちを児童に問いかけながら、台詞の言い方や動作をいっしょに考えたり促したりされる前田先生の姿を見て、とても参考になった。